

年間学習計画と評価について

| | | |
|-----------|-----|-----|
| 学 校 名 | 学 年 | 教 科 |
| 内 部 中 学 校 | 3 年 | 国 語 |

1 学習のねらい等

| | |
|--------|--|
| 学習のねらい | <p>○様々な国語作品や漢字・文法の学習を通して、国語への関心を高め、感性を豊かにし、ものの見方・考え方を深め、国語の基礎学力を伸ばし育てる。</p> <p>○状況に応じて、自分の考えを相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりする力を養う。（話す・聞く力）</p> <p>○目的に応じて筋道を立てて文章を書いたり、まとめたりする力を養う。（書く力）</p> <p>○様々な題材を通して、その作品の意図する内容を的確に読み取り、把握する力を養う。（読む力）</p> <p>○言葉や文法についての学習を通して、言語知識を身につける。（言語に関する知識・理解・技能）</p> <p>○正確な漢字の読み書きができる力を養う。（言語に関する知識・理解・技能）</p> |
| 使用教材 | <p>教科書：国語3（光村図書），新編 新しい書写（東京書籍）</p> <p>問題集：国語の学習3（明治図書），漢字練習帳（正進社），作文ノート（とうほう） すらすら基本文法（浜島書店）</p> <p>その他：国語辞典、習字セット</p> |

2 評価の観点および方法

| 評 価 の 観 点 | | 評 価 の 方 法 |
|----------------------|---|--|
| ①関心・意欲 態度 | 国語に関心を持ち、意欲的な態度で学習に取り組むことができる。 | ・課題のノートへのまとめ方・授業中の発言・発表の様子・授業中の行動の様子・国語のワークなどの提出状況・暗唱テスト |
| ②話す・ 聞く力 | 自分の考えを深め、目的や場面に応じて、話したり、聞き取ったりすることができる。 | 説明・発表の様子・スピーチや討論の内容・聞き取りテスト・聞く態度・定期テスト |
| ③書く力 | 目的に応じてさまざまな文章を、形式を整えて書くことができる。 自分の感性や考えを大切にしながら、表現方法を工夫し、読む人を意識しながら書くことができる。 | 課題レポート・課題プリント・感想文や作文や俳句などの創作・定期テスト |
| ④読む力 | 目的に応じて様々な文章を的確に読み取り、自分の意見をもつことができる。 | 授業中の課題・朗読テスト・暗唱テスト・定期テスト |
| ⑤言語についての知識・ 理解・技能 | 文法や漢字等の知識を身につけることができる。書写では楷書や行書を正しく整えて、速く書くことができる。 | 音読・小テスト（漢字・文法）・書写作品・定期テスト |

3 学習計画

| | 各単元と主な学習内容 | 観点別評価の具体例 |
|-------------|---|---|
| 一 学 期 | <p>「春に」「初恋」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○詩について興味を持ち、作品を味わおうとしている。 ○詩を読み、人間や自然について考え自分の意見をもつ。 <p>「握手」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物語の内容に興味を持ち、作品を読み進められる。 ○小説を読み、人間や社会についての考え方を深め、自分の生き方を考える。 <p>「熟語の読み方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○熟語には音と訓をさまざまに組み合わせた読み方があることを知る。 <p>「月の起源を探る」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの段落の要点をまとめ、筆者の論理展開の仕方を読み取る。 <p>「和語・漢語・外来語」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○和語・漢語・外来語・混種語の性質や特徴について理解する。 <p>「俳句の可能性・俳句十六句」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作品のリズムを活かして音読する。 ○俳句についての基本的な知識（形式、季語、切れ字など）を理解する。 ○作品の情景を想像し、作者の伝えたいことを感じ取る。 ○自作の俳句を書く。 <p>「『批評』の言葉をためる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○論旨を読み取り、自身の国語学習に生かそうとする。 <p>「読書生活をデザインしよう」</p> <p>「高瀬舟」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の読書生活を振り返り、進んで読書に親しむ。 | <ul style="list-style-type: none"> ○詩の表現に関心をもち、音読を行う際の注意点や工夫点を確認・理解しながら音読している。〈関・言〉 ○表現のしかたなどに注意しながら読み、人間や自然などについて自分の考えをもとうとしている。〈読〉 <ul style="list-style-type: none"> ○作品を読み自分の考えを深めようとしている。〈関〉 ○登場人物の人柄、考え方、生き方や、揺れ動く主人公の気持ちを読み取っている。〈読〉 ○背景に流れる音楽や過去と現在を交錯させる構成など、作品を読む視点に気づき読み深めている。〈読〉 ○語句や表現技法の文脈の中での意味や効果を捉えている。〈言〉 <ul style="list-style-type: none"> ○音訓を意識して読むことができる。〈言〉 ○「重箱読み」「湯桶読み」「熟字訓」の原則を理解している。〈言〉 <ul style="list-style-type: none"> ○語句の使い方や表現上の工夫に注意しながら文章を読み、内容を理解しようとしている。〈関・読〉 ○筆者の主張を理解した上で、自分の考えをもとうとしている。〈読〉 <ul style="list-style-type: none"> ○日常の言語生活を振り返り、和語・漢語・外来語の使い分けを理解し、日常生活に生かそうとしている。〈関・言〉 <ul style="list-style-type: none"> ○俳句の基礎知識について理解している。〈言〉 ○俳句の表現の深さを詠み味わうことができる。〈読〉 ○自分の感動の中心を捉え、俳句として表現することができる。〈書〉 <ul style="list-style-type: none"> ○批評することの意味を知り、言葉の重要性に気づくことができる。〈関・言〉 <ul style="list-style-type: none"> ○自分の読書生活を振り返り、本の幅を広げたり、読書生活を見直したりしようとしている。〈関〉 ○高瀬舟を足がかりとし、進んで読書に親しもうとする意欲をもって作品を読んでいる。〈関・読〉 ○小説を読み味わい、人間、社会、生命について自分の考えをもつことができる。〈読〉 |

| | | |
|----------------------|---|--|
| | <p>「慣用句・ことわざ・故事成語」</p> <p>○言葉の意味を知り、その表現の効果を考え、自分の表現上の工夫に生かす。</p> | <p>○慣用句・ことわざ・故事成語の具体的な内容・種類を理解している。〈言〉</p> <p>○慣用句・ことわざ・故事成語を効果的に生かすことができる。〈言〉</p> |
| <p>二 学 期</p> | <p>「挨拶一原爆の写真によせて」</p> <p>○詩に表現されている内容と現実の世界の在り方と対応させながら読む。</p> <p>○詩の語句や表現に込められた意味を注意深く読み、作者の主張を理解する。</p> <p>「想いのリレーに加わろう」</p> <p>○図と本文との対応を確認し、図の役割や効果について考える。</p> <p>○それぞれの仮説の要点をまとめ、筆者の論理展開のしかたを読み取る。</p> <p>○科学的なものの見方や研究方法について、自分の考えをまとめる。</p> <p>「古今和歌集 仮名序」</p> <p>「君待つと一万葉・古今・新古今」</p> <p>○和歌の特徴を捉え、リズムや意味の切れ目に注意して朗読する。</p> <p>○和歌に詠まれている情景や感情を読み味わう。</p> <p>「夏草一『おくのほそ道』から」</p> <p>○文章の特徴やリズムを生かしながら音読し、暗唱する。</p> <p>○芭蕉の旅への思いを理解する。</p> <p>「古典を心の中に」</p> <p>○生活の中で用いられている古典の言葉を探し、現代とのつながりを考える。</p> <p>「書写（毛筆・硬筆）」</p> <p>○自分の字を客観的に見つめ、より丁寧な字を書くように心がける。</p> <p>「文法のまとめ」</p> <p>「漢字の造語力」</p> <p>○漢字の造語力について知り、翻訳語と新しい語という側面から、表意文字と</p> | <p>○詩を読み味わい、作者のものの見方や考え方について自分の意見や考えをもとうとしている。〈関〉</p> <p>○表現や語句の効果に着目し、現実の世界の在り方と対応させながら、作者の思いについて自分の言葉で説明している。〈読〉</p> <p>○語句の使い方や表現上の工夫に注意しながら文章を読み、内容を理解しようとしている。〈関・読〉</p> <p>○筆者の論理展開を捉え、科学的なものの見方や研究方法について自分の考えをもっている。〈読〉</p> <p>○冒頭部分の内容に興味をもち、音読を楽しみながら作品世界に親しもうとしている。〈関〉</p> <p>○古人が「和歌」をどのように捉えていたかを理解している。〈読〉</p> <p>○言葉の響きやリズムを味わうことができる。〈言〉</p> <p>○作品の表現の特徴を押さえながら情景や感情を読み取ることができる。〈読〉</p> <p>○表現の特徴や、作者の自然や人生に対するものの見方や感じ方を読み取ることができる。〈読〉</p> <p>○古典作品から言葉を引用して、文章の形態を選び、適切な構成を工夫して書いている。〈関・書〉</p> <p>○行書について理解し、文字として表現できる。〈言〉</p> <p>○今まで学習したことを振り返り、すべての文法について理解している。〈言〉</p> <p>○漢字の造語力について理解し、いろいろな熟語の構成について考えている。〈言〉</p> |

| | | |
|-------------|--|--|
| 三 学 期 | <p>しての漢字の特徴を考える。</p> <p>「故郷」</p> <p>○場面描写に着目して読み、登場人物の心情や作者の意図を読み取る。</p> <p>○効果的な表現をとらえ、読み味わう。</p> <p>「学びて時にこれを習ふー『論語』から」</p> <p>○漢文特有の表現の特徴やリズムに注意して音読する。</p> <p>○作品を通し、古人の教えを理解する。</p> <p>「作られた『物語』を越えて」</p> <p>○筆者の考えを表す獄や論理の展開に着目して主張を捉え、表現の仕方について評価する。</p> <p>「誰かの代わりに」</p> <p>○文章を読んで自らの言語生活について考える。</p> <p>「漢字のまとめ」</p> <p>○中学校での漢字学習の総まとめとして、これまで学んできた漢字についてさまざまな問題を振り返り、確認する。</p> | <p>○作品に描かれている人間と社会との関わりについて考え、自分の意見をもとうとしている。〈関・読〉</p> <p>○情景や人物を描写する語句や表現を根拠として、登場人物の心情や作者の意図について読み深めている。〈読〉</p> <p>○人間の生き方に対する鋭い観察や深い思索を読み取り自分のものの見方を深めている。〈読〉</p> <p>○獄や論理の展開、表現の仕方などについて自分なりに評価している。〈読〉</p> <p>○心と言葉について考えを深め、自身の今までとこれからを見つめることができる。〈読〉</p> <p>○義務教育を終了するにあたり、社会生活の中で漢字をつかいこなす力をつける。〈言〉</p> |
|-------------|--|--|

4 学習方法についてのアドバイス

| | | |
|------|--------|---|
| 学習方法 | 学 校 | <p>○学習課題を的確に把握し、前向きに課題に取り組もう。</p> <p>○先生の話や友達の発表・意見をしっかりと聞き、自分の考えと比較し、自分なりの考えをもとう。</p> <p>○わかったことをノートにまとめよう、また積極的に挙手して発表しよう。</p> <p>○授業中に板書されたことや気づいたことなどをノートに工夫してまとめよう。</p> <p>○わからない語句に出会ったら、すぐに辞書で調べよう。</p> <p>○興味のある作品や作者については資料集を活用して調べよう。</p> |
| | 家 庭 | <p>○ノートまとめや「国語のワーク」などは各自で自主的に進めよう。</p> <p>○宿題は必ず家でやってこよう。</p> <p>○漢字の小プリントやテストで間違えた問題は必ず復習をしよう。</p> <p>○わからない語句に出会ったら、すぐに辞書で調べよう。</p> <p>○新聞を読もう。また、本をたくさん読み、視野を広げ、心を豊かにしよう。</p> |